

報告 3 埼玉県内の不規則抗体カード発行の現状 — アンケート調査結果より — (輸血業務検討小委員会報告)

演者：大木 浩子 埼玉医科大学総合医療センター 輸血部

スライド 1

**埼玉県内の不規則抗体カード発行の現状
— アンケート調査結果より —**

埼玉県合同輸血療法委員会 検査技師分科会

大木 浩子¹⁾ 野瀬 幸子²⁾ 菊池 智晶³⁾
岡本 直子⁴⁾ 坂口 武司⁵⁾

1) 埼玉医科大学総合医療センター
2) 深谷赤十字病院
3) 独立行政法人国立病院機構埼玉病院
4) さいたま赤十字病院
5) 防衛医科大学校病院

第10回埼玉輸血フォーラム 平成31年3月23日

よろしくお願ひします。

スライド 2

はじめに

- ▶ 一昨年の「第8回輸血フォーラム」において、埼玉県合同輸血療法委員会ホームページ上への「不規則抗体保有カード」発行情報の掲載内容と、埼玉県内での発行状況などについて報告を行った。
- ▶ 今回は、昨年12月に行ったアンケート調査結果より「不規則抗体カード発行」の現状と問題点などについて報告する。

一昨年の「第8回輸血フォーラム」において、埼玉県合同輸血療法委員会ホームページ上への「不規則抗体保有カード」発行情報の掲載内容と、埼玉県内での発行状況などについて報告を行ないました。今回は、昨年12月に行いましたアンケー

ト調査結果より「不規則抗体カード発行」の現状と問題点などについて報告いたします。

スライド 3

アンケート

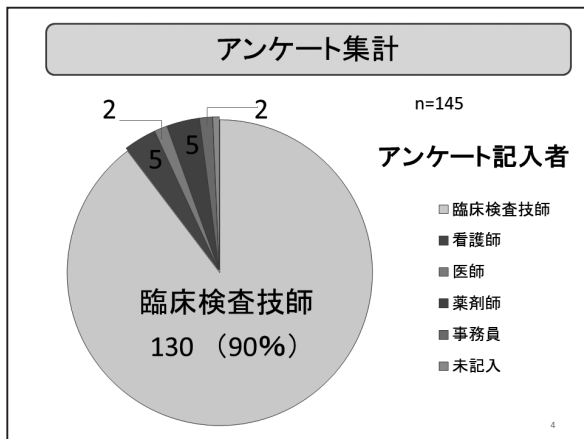
- ◆ 目的 : 埼玉県における「赤血球不規則抗体保有カード」の発行状況と運用上問題点を把握する
- ◆ 対象施設 : 埼玉県内医療施設の内、赤血球製剤を年間100単位以上供給を受けた223施設
- ◆ 調査内容 : 不規則抗体検査の状況、「赤血球不規則抗体保有カード」や類似カード等の発行件数と、他院で発行したカードの受取件数及びその問題点と意見について調査

↓

アンケート回収率 … 65% (145施設 / 223施設)

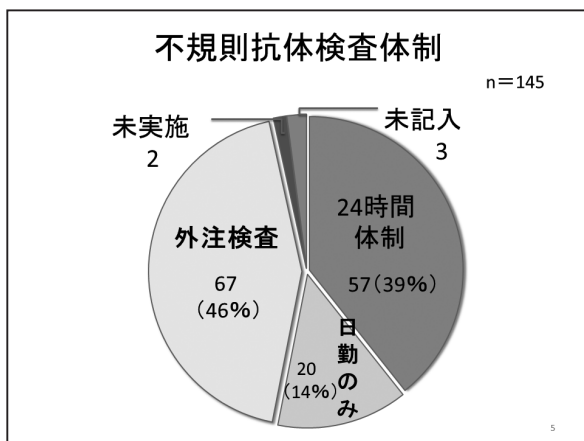
アンケートの内容です。埼玉県における「赤血球不規則抗体保有カード」の発行状況と運用上問題点を把握することを目的にアンケートをとりました。対象施設は、埼玉県内医療施設の内、赤血球製剤を年間100単位以上供給された223施設にアンケート用紙を配布しました。調査内容は、不規則抗体検査の状況「赤血球不規則抗体保有カード」や類似カード等の発行件数と、他院で発行したカードの受取件数及びその問題点と意見について調査しました。アンケートの回収率は、223施設中145施設から回答を得まして、65%の回収率となっています。

スライド 4



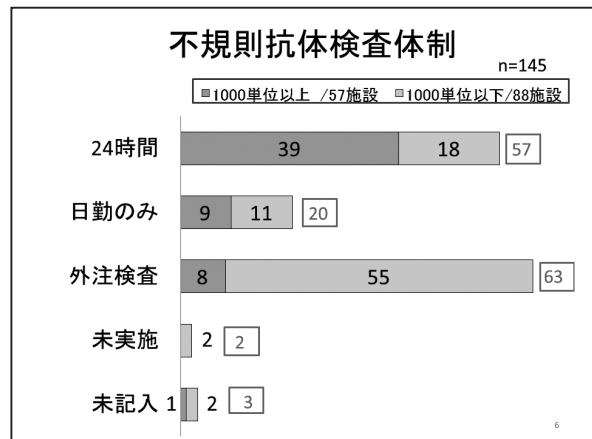
145 施設のアンケートの集計結果です。まず、アンケート記入者は、90%が臨床検査技師で、その他、看護師、薬剤師、医師の方々が記入されていました。

スライド 5



不規則抗体検査体制についてです。145 施設の内訳です。院内で不規則抗体検査を実施している施設の中で 24 時間体制は 57 施設、全体の 39%で、日勤のみが 20 施設・14%でした。外注検査で行っている施設は、67 施設・46%という結果でした。

スライド 6

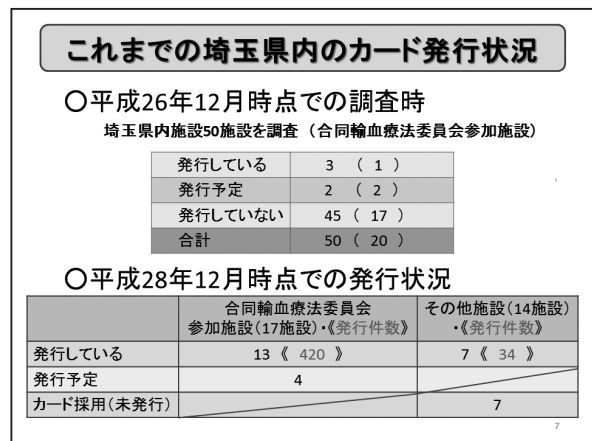


赤血球製剤の供給単位数を 1,000 単位で分けて規模による施設の割合を示しました。

145 施設の内訳ですが、1,000 単位以上が 57 施設、1,000 単位以下が 88 施設です。

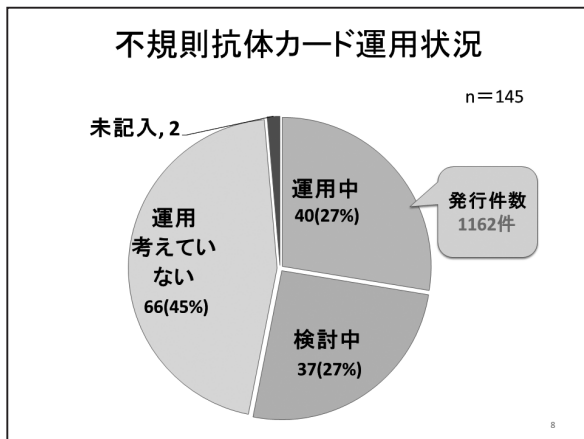
不規則抗体検査体制は、赤血球製剤の供給単位数 1,000 単位以上の施設では院内で 24 時間体制で検査実施している施設が約 70%でした。1,000 単位以下の施設は、87%で外注検査でした。

スライド 7



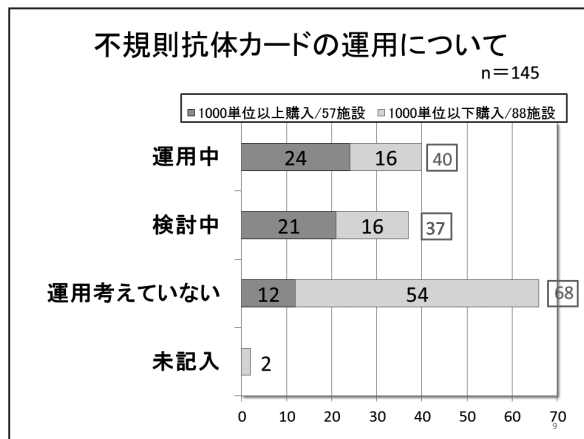
次に、これまでの埼玉県内の不規則抗体カード発行状況についてですが、平成 26 年 12 月時点での調査時は、合同輸血療法委員会参加施設を含めて 3 施設でしたが、平成 28 年 12 月現在で 20 施設、発行件数は 454 件に増えていました。

スライド 8



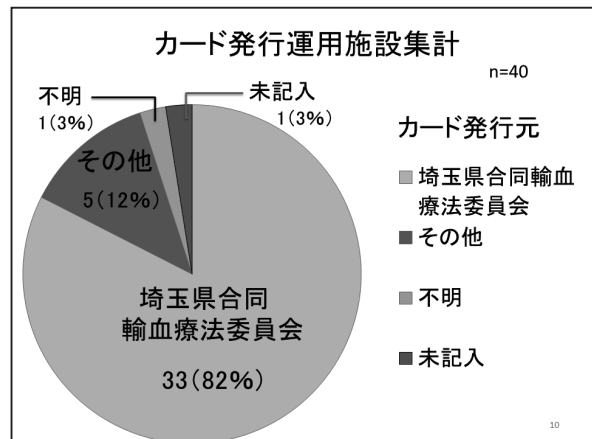
今回のアンケート調査結果です。カード運用中は、40 施設で全体の 27%、発行件数は 1,162 件でした。発行を検討中施設が 37 施設・27%、運用を考えていない施設が 66 施設・45%でした。

スライド 9



供給数別では、1000 単位以上では運用中が 24 施設・60%で、検討中は 21 施設でした。1000 単位以下では、運用を考えていない施設が 54 施設で約 80%を占めていました。

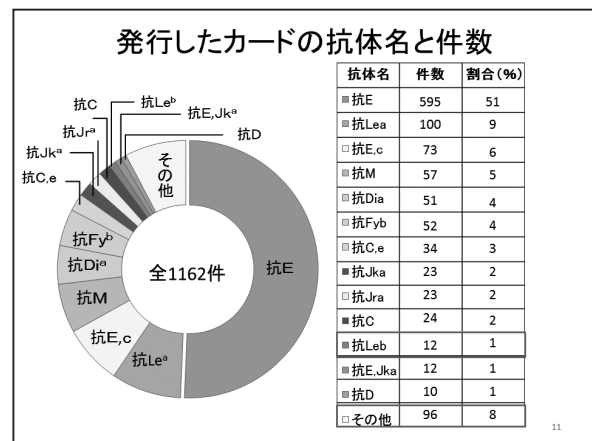
スライド 10



カードを発行している 40 施設のカード発行元について調べた結果です。埼玉県合同輸血療法委員会のもを採用している施設が 33 施設の 82%で一番多いという結果です。

その他として独自で作成したものを使用している施設もありましたが、今回の調査では、日本輸血・細胞治療学会のもを採用している施設はありませんでした。

スライド 11



発行したカードの抗体名と件数です。40 施設から全部で 1,162 件のカードが発行されていました。その抗体名の内訳ですが、一番多いのは、抗 E で 595 件で約半数を占めておりました。その中で、その他は 96 件あり、抗体は複合抗体など 38 種類ありました。表に赤く囲いましたが、抗 Leb 12 件やその他に抗 P 1 3 件、抗 N 1 件など臨床的意義のない抗体も含まれており、カードを発行する必要はなかったと思われます。

スライド 12

カード発行運用施設での問題点

* 問題があった施設：17施設

- ✓ カード発行作業が煩雑で時間を要する
- ✓ 説明困難(「抗体」という言葉に抵抗・不安あり)
- ✓ 理解困難
- ✓ カードを作成したが、患者が転院・退院して渡せない
- ✓ 患者への説明と渡すタイミング
- ✓ 医師から「状態が落ち着いてから(手術後)にして」と言われた
- ✓ 抗体追加時、前のカード回収が困難

12

カード発行運用施設での問題点についてあげています。問題があったと回答した施設が 17 施設ありました。カード発行作業が煩雑で時間を要する。カードを渡す際、患者さんに説明が困難、カードを渡すタイミングなどのご意見がありました。

スライド 13

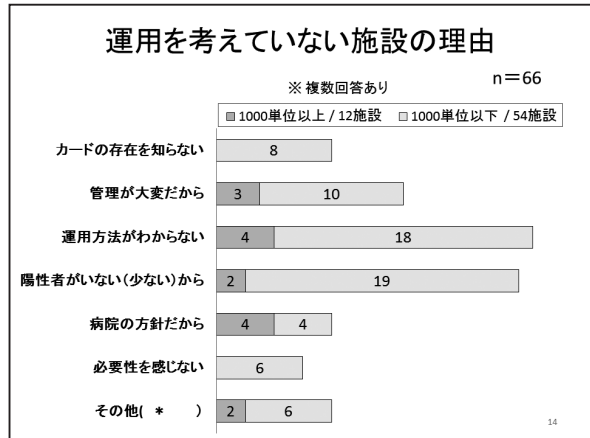
運用検討中施設の困っていること

- ✓ カードを患者に渡す際、だれがどこで説明を行うのか？
- ✓ カードを渡すタイミングは？
- ✓ 臨床側(看護部)からの協力が得られない
- ✓ カードを印刷するプリンターなどがない
- ✓ 発行に手間がかかり、業務時間がない
- ✓ 運用・管理方法がわからない

13

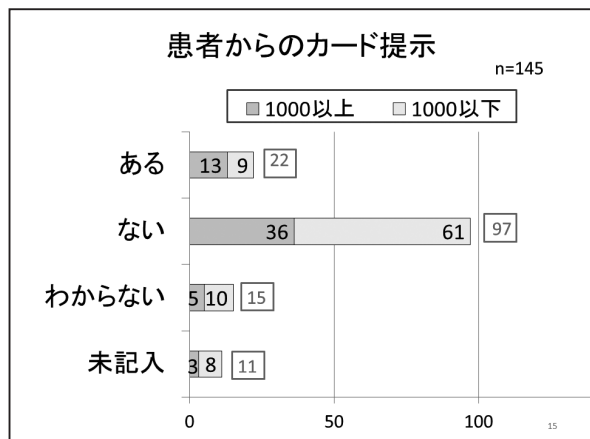
今回のアンケートで、現在、赤血球不規則抗体保有カードの運用を検討している施設において困っている主なことです。カードを患者に渡す際、説明をだれがどこで行うのか。また、カードを渡すタイミングは。臨床(看護部)からの協力が得られないため発行にいたっていない、などの意見がありました。

スライド 14



運用を考えていない 66 施設での理由ですが、供給 1,000 単位以下の施設からのご意見では、運用方法がわからないや陽性者がいない又は少ないなどの理由が多かったです。

スライド 15



患者からのカード提示についてです。提示があった施設は、22 施設で、供給 1,000 単位以上で 13 施設、1,000 単位以下で 9 施設という結果でした。

スライド 16

| 患者からのカード提示あり施設 <small>n=22</small> | | |
|------------------------------------|-----|----|
| カードの種類 | 施設数 | 件数 |
| 埼玉県合同輸血療法委員会 | 11 | 12 |
| 日本輸血・細胞治療学会 | 1 | 1 |
| その他 | 6 | 6 |
| 不明 | 4 | 4 |

| 赤血球輸血の 依頼 | 施設数 | カードの有効性 | 施設数 |
|--------------|-----|---------|-----|
| あり | 14 | あり | 20 |
| なし | 7 | なし | 0 |
| 未記入 | 1 | 未記入 | 2 |

カード提示があった施設の内訳です。カードの種類は、埼玉県合同輸血療法委員会発行が 11 施設で 12 件ありました。今回、回答した施設で採用はなかったのですが日本輸血細胞治療学会が発行したカードを患者さんが提示した施設が 1 施設ありました。カードを提示された患者さんに赤血球輸血の依頼があった施設は 14 施設でした。カードを提示されてカードの有効性について 20 施設が有効性ありとの回答でした。

スライド 17

| 患者からカードを提示された施設での問題点 |
|---|
| ✓ 医師からの連絡がなく、患者カルテから判明した。 |
| ✓ 検査部まで情報が届かないまま輸血依頼があり、クロスマッチ不適合となった後で、患者からカードが提示されていたことが判明した。 |
| ✓ 適合血の確保が困難であった。 |
| ✓ カードを提示された時の対応について、手順・体制が決められていなかった。 |
| ✓ カードに記載されていた不規則抗体以外の抗体を保有していた。 |

患者からカードを提示された施設での問題点についてです。

- まず、医師からの連絡がなく、患者カルテから後で判明した。検査を行った後で患者さんから提示されていたことを知った。
- カードに記載されていた適合血の確保が困難であった。

- カードを提示された時の対応について、手順・体制が決められていなかった。
- カードに記載されていた不規則抗体以外の抗体を保有していた。
などのご意見がありました。

スライド 18

| アンケート調査結果より |
|--|
| ● 不規則抗体の検査実施は、24時間体制の施設が約 40%あり、日勤のみを含めると院内での検査実施率は約50%であった。 |
| ● 不規則抗体カードを運用している施設は40施設で、発行件数は1000件以上であった。 |
| ● 不規則抗体カードの発行・運用を検討している施設は37施設であったが、それには様々な問題があることがわかった。 |
| ● 患者からカードを提示された施設は22施設で、23件あった。カードの情報は赤血球輸血時に有用であった。 |

今回のアンケート調査結果のまとめです。不規則抗体の検査実施は、24時間体制の施設が約 40%あり、日勤のみを含めると院内での検査実施率は約 50% でした。また、不規則抗体カードを運用している施設は 40 施設あり、発行件数は 1,000 件を超えていました。不規則抗体カードの発行・運用を検討している施設は 37 施設ありましたが、そこには様々な問題があることがわかりました。そして、患者からカードを提示された施設は 22 施設あり、件数は 23 件ありました。カードの情報は赤血球輸血時に有用であったとのご意見でした。

スライド 19

問題点と今後の課題

- ▶ 赤血球製剤1000単位以上使用施設において、不規則抗体検査を院内で実施していない、あるいは日勤のみ実施の施設が約30%あった。
- ▶ 「臨床的意義のない不規則抗体」についても不規則抗体カードが発行されていた。「不規則抗体カード」発行の本来の意義について啓蒙していく必要がある。
- ▶ 不規則抗体カードの運用を検討中、もしくはまだ運用を考えていない施設での問題点について、埼玉県合同輸血療法委員会で検討し、協力していく必要がある。

19

問題点と今後の課題です。赤血球製剤 1,000 単位以上使用施設において、不規則抗体検査を院内で実施していない、あるいは日勤のみ実施の施設が約 30% ありました。また、「臨床的意義のない不規則抗体」についても不規則抗体カードが発行されていましたので、「不規則抗体カード」発行の本来の意義について啓蒙していく必要があると思います。不規則抗体カードの運用を検討中、もしくはまだ運用を考えていない施設での問題点について、埼玉県合同輸血療法委員会で検討し、協力していく必要があると思います。

スライド 20

まとめ

- ▶ 安全な赤血球輸血を行うためには、24時間体制での不規則抗体検査を推奨する活動も継続していく必要がある。
- ▶ 埼玉県内の医療機関で多くの「不規則抗体カード」が発行されているが、今後も普及に努めていきたい。
- ▶ 今回の調査で患者からカードを提示されたケースがあることが検証された。今後も多くの施設にカードが提示されることが予想されるが、その際、適切に対応することが望まれる。

20

まとめです。安全な赤血球輸血を行うためには、多くの施設で 24 時間体制での不規則抗体検査を行うことを推奨する活動も継続していく必要があると考えています。現在、埼玉県内の医療機関で多くの「不規則抗体カード」が発行されているが、

今後も普及に努めていきたいと思います。今回の調査で患者からカードを提示されたケースがあることが検証されました。今後も多くの施設にカードが提示されることが予想されますので、その際、各施設で適切に対応することが望まれます。

スライド 21

問題点と今後の課題

- ▶ 赤血球製剤1000単位以上使用施設において、不規則抗体検査を院内で実施していない、あるいは日勤のみ実施の施設が約30%あった。
- ▶ 「臨床的意義のない不規則抗体」についても不規則抗体カードが発行されていた。「不規則抗体カード」発行の本来の意義について啓蒙していく必要がある。
- ▶ 不規則抗体カードの運用を検討中、もしくはまだ運用を考えていない施設での問題点について、埼玉県合同輸血療法委員会で検討し、協力していく必要がある。

19

最後に、今回の発表に際し、埼玉県内のアンケート調査にご協力頂いた施設の方々に感謝いたします。発表は以上です。ありがとうございました。

質 疑 応 答

- 賀古 大木先生、ありがとうございました。フロアの皆さまからご質問・コメント等ありましたら是非いただければと思います。いかがでしょうか。
- 池淵 うまく運用できている施設では、誰がどのようなタイミングで説明されているのかわかりましたら教えてください。
- 大木 担当医から説明とカードを渡していただいている。他の施設では、検査技師の方が患者さんに直接説明して渡しているところもあります。その方が患者さんにとっても、よいのかなと思います。
- 賀古 フロアの方、いかがでしょうか。発表の中でもありましたが、血液製剤の使用単位の少ない施設、輸血を行う頻度の少ない施設で対応に困ることが多い中で、輸血療法委員会の方でも検討して行きたいと思います。是非今後ともよろしく願いいたします。どうも、ありがとうございました。